

広瀬庁舎、広瀬中央交流センター 整備基本構想

令和4年3月

安来市財政課

目 次

1. はじめに.....	1
(1) 構想の背景及び目的.....	1
(2) 上位関連計画の整理.....	2
2. 広瀬地域および対象施設を取り巻く状況の整理.....	3
(1) 広瀬地域の人口動向.....	3
(2) 現在の広瀬庁舎と広瀬中央交流センターの状況.....	4
(3) 広瀬庁舎、広瀬中央交流センター周辺の関連する公共施設の状況.....	7
3. 複合施設に求められる機能の整理.....	9
(1) 市民ワークショップの開催概要.....	9
(2) 市民ワークショップの結果整理.....	10
4. 複合施設整備基本構想の策定.....	15
(1) 複合施設の整備コンセプト.....	15
(2) 整備の方針.....	16
(3) 導入機能.....	17
(4) その他の留意事項.....	18
(5) 施設機能イメージ.....	18
5. 基本構想実現に向けて.....	19
(1) 今後の検討事項.....	19
(2) 事業スケジュール.....	19

1. はじめに

(1) 構想の背景及び目的

安来市広瀬町に所在する現在の広瀬庁舎は、昭和41年（1966年）に建設された建物で、築後50年以上経過し建物の老朽化が著しくなっています。また、空調設備等の更新も行われていないため現代の設備と比較して極めて非効率な状態となっています。

耐震性能においても昭和56年（1981年）以降に適用される耐震基準（いわゆる「新耐震基準」）を満たしておらず、耐震補強工事も行われていないため建替えの検討が必要となっています。

平成16年（2004年）の市町村合併により分庁舎方式を採用し建物内に複数の部署を配置しましたが、現在は1階に広瀬地域センターと2つの部署を配置するのみとなっています。

また、広瀬庁舎の北東150mに位置する広瀬中央交流センターも、昭和49年（1974年）に建設され、内部にひろせ図書室を有する建物ですが、広瀬庁舎と同じく老朽化が進んでおり、耐震補強工事が必要な状態となっています。

安来市では、平成28年度（2016年）に「安来市公共施設等総合管理計画」を策定し、計画の中で施設総量の削減による維持管理コストの縮減を掲げており、施設の複合化・集約化を推進することとしています。

今回の基本構想では、老朽化が進み最新の耐震性能を備えていない両建物について、住民活動の活性化が促される拠点づくりを目的として、新たな複合施設の整備に向けた基本構想を策定します。



(2) 上位関連計画の整理

1) 第2次安来市総合計画 後期基本計画・第2期安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(令和2年度(2020年)～令和7年度(2025年))

第2次安来市総合計画では、「人が集い、未来を拓く、ものづくりと文化のまち」を将来像に掲げ、その実現に向けて右に示す5つの基本理念に基づき、まちづくりを進めることとしています。

総合計画では、生涯学習の推進の中で、交流センター機能・体制の強化充実や、地域コミュニティの育成の中で交流センターを中心とした特色ある地域づくりの推進、若年世代に魅力的な地域活動推進・交流拠点整備・リーダー育成などを掲げており、交流センターはその生涯学習や地域活動の拠点として位置づけられるものです。

また、安定的な財政基盤を確立するために、将来の人口規模に応じた公共施設等の整備や適正な管理を行うことが求められています。



2) 安来市公共施設等総合管理計画

(平成29年度(2017年)～令和28年度(2046年))

安来市の公共施設は、施設の老朽化が進み、維持管理コストが増大している施設や、人口減少などにより施設利用者が減少し、稼働率が低くなっている施設が増加しています。

安来市公共施設等総合管理計画では、それらの課題に対応するため、「施設総量の適正化」、「予防保全・長寿命化」、「効率的・効果的な管理運営」を基本方針に掲げ推進することとしており、施設類型ごとの管理に関する基本方針では、それぞれ以下のように定めています。

○集会施設（交流センター）

- ・利用状況や周辺施設の状況も踏まえ、他の公共施設への機能移転も検討する。
- ・施設内の余剰スペースに他の施設機能を移転集約し、有効活用や利便性の向上を図る。
- ・施設の更新時期や規模については、施設全体のバランスを勘案し調整する。
- ・計画的な施設改修及び適切な維持管理を図ることにより、ライフサイクルコスト（施設の建設費、管理運営費、改修費、解体費まで施設の一生に必要な費用）の縮減を推進する。

○庁舎等

- ・広瀬庁舎は、新耐震基準を満たしておらず老朽化も著しいことから施設を解体し、複合施設や機能移転も含めた検討を行う。

2. 広瀬地域および対象施設を取り巻く状況の整理

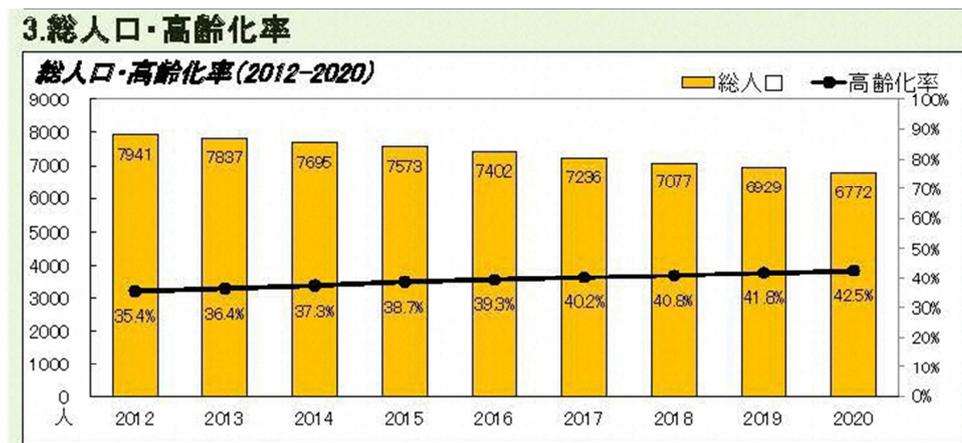
(1) 広瀬地域の人口動向

本市の人口は、市町村合併時の平成16年(2004年)に、45,030人だったものが、令和3年(2021年)3月末では37,512人となり、市町村合併時と比較して15%超の減少になっています。

今後もこの減少傾向は続くものと考えられ、本市の将来展望を踏まえた「安来市人口ビジョン」では、令和42年(2060年)において、人口30,000人の維持を将来人口目標としています。

広瀬地域の人口は直近5年間で約800人減少しており、その要因としては、自然減少(出生数<死亡数)に加え、20~39歳までの子育て世代の社会減少(広瀬地域外への転出)が影響しています。

広瀬地域の将来に渡る人口動向を島根県中山間地域研究センターの人口推計を用いて見ると、この状態が今後も継続した場合、30年後には人口が半分以下になると推計されます。

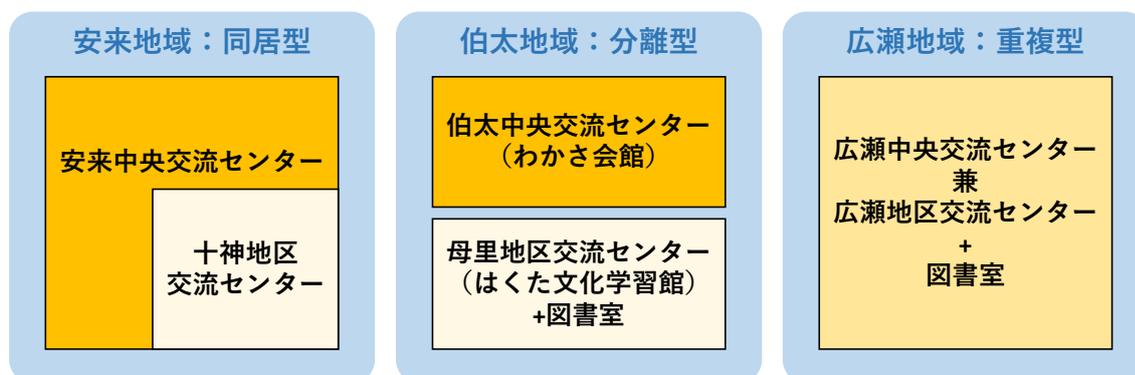


(2) 現在の広瀬庁舎と広瀬中央交流センターの状況

1) 両施設の機能と位置づけ

- ・ 広瀬庁舎
(住民票発行等の窓口業務のほか、地域振興に関することを行う)
- ・ 広瀬中央交流センター
(各交流センターとの連携を図り、包括的な支援及び総合的調整を行う)
- ・ 広瀬交流センター
(地域振興、生涯学習、青少年健全育成、健康福祉増進、施設の開放を行う)
- ・ ひろせ図書室
(図書室及び郷土資料室)

【参考】安来市の中央交流センターと地区交流センターの位置づけ（現状）



2) 位置及び規模

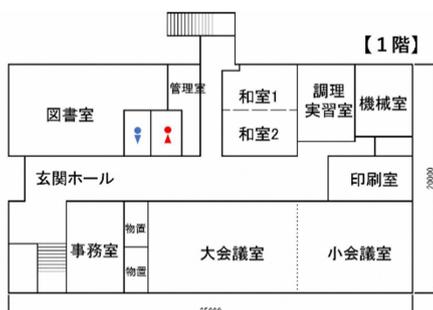
① 広瀬庁舎

位 置 安来市広瀬町広瀬 703
 建 築 年 昭和 41 年(1966 年)10 月
 構 造 鉄筋コンクリート造
 延床面積 1,796 m²
 敷地面積 1,903 m²
 駐車台数 33 台



② 広瀬中央交流センター

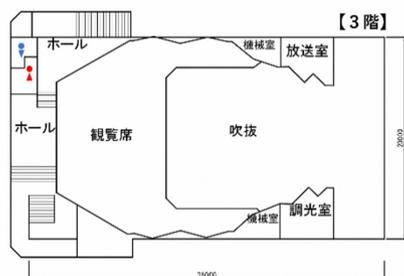
位 置 安来市広瀬町広瀬 811
 建 築 年 昭和 49 年(1974 年)11 月
 構 造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
 延床面積 2,096 m²
 敷地面積 1,495 m² (建物部分、借地部分除く)
 1,554 m² (駐車場部分)
 駐車台数 52 台 (未舗装駐車場は除く)



小会議室



図書室



多目的ホール

3) 現在の広瀬庁舎と広瀬中央交流センターの耐震診断調査等の概要

①広瀬庁舎

現在の建物構造は建築当初のままであり、昭和 56 年(1981 年)新耐震基準（建築基準法）以前の建物です。

このため、平成 14 年度（2002 年）に耐震診断調査を行い、その結果、現在の建物について I_s/I_{so} 値が 0.74 であるため、「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある」とされています。

②広瀬中央交流センター

現在の建物構造は建築当初のままであり、昭和 56 年(1981 年)新耐震基準（建築基準法）以前の建物です。

このため、平成 14 年度（2002 年）に耐震診断調査を行い、その結果、現在の建物について I_s/I_{so} 値が 0.53 であるため、「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある」とされています。

(3) 広瀬庁舎、広瀬中央交流センター周辺の関連する公共施設の状況

1) 立地状況

広瀬庁舎の周辺には広瀬中央交流センターのほかに、広瀬小学校や放課後児童クラブ（旧広瀬幼稚園）、島根総合福祉専門学校及び島根県立情報科学高等学校の学生寮として使用する宿泊施設ひろせ、集会所として利用可能な町民会館、会議室機能を備えた広瀬町名誉町民顕彰館、広瀬体育館といった公共施設が点在しています。

また、安来市社会福祉協議会が所有する社会福祉センターもあります。



対象施設や周辺施設の概要

施設名	延床面積	建築年	築年数	諸室
広瀬庁舎	1,796 m ²	昭和 41 年(1966 年)	56 年	広瀬地域センター
広瀬中央交流センター	2,096 m ²	昭和 49 年(1974 年)	48 年	事務所、大小会議室、和室、調理室、多目的ホール、図書室
町民会館	377 m ²	不明	—	和室、公衆トイレ
広瀬町名誉町民顕彰館	275 m ²	平成 15 年(2003 年)	19 年	顕彰室、桜内文庫、会議室
社会福祉センター				会議室、視聴覚会議室、和室、調理室、ロビー（まんが図書館）
広瀬小学校	4,053 m ²	昭和 44 年(1969 年)	53 年	学校機能
放課後児童クラブ (旧広瀬幼稚園)	802 m ²	昭和 62 年(1987 年)	35 年	学童保育機能
宿泊施設ひろせ	1,226 m ²	平成 9 年(1997 年)	25 年	学生寮機能
広瀬体育館	約 870 m ²	昭和 40 年(1965 年)	57 年	体育館、ステージ

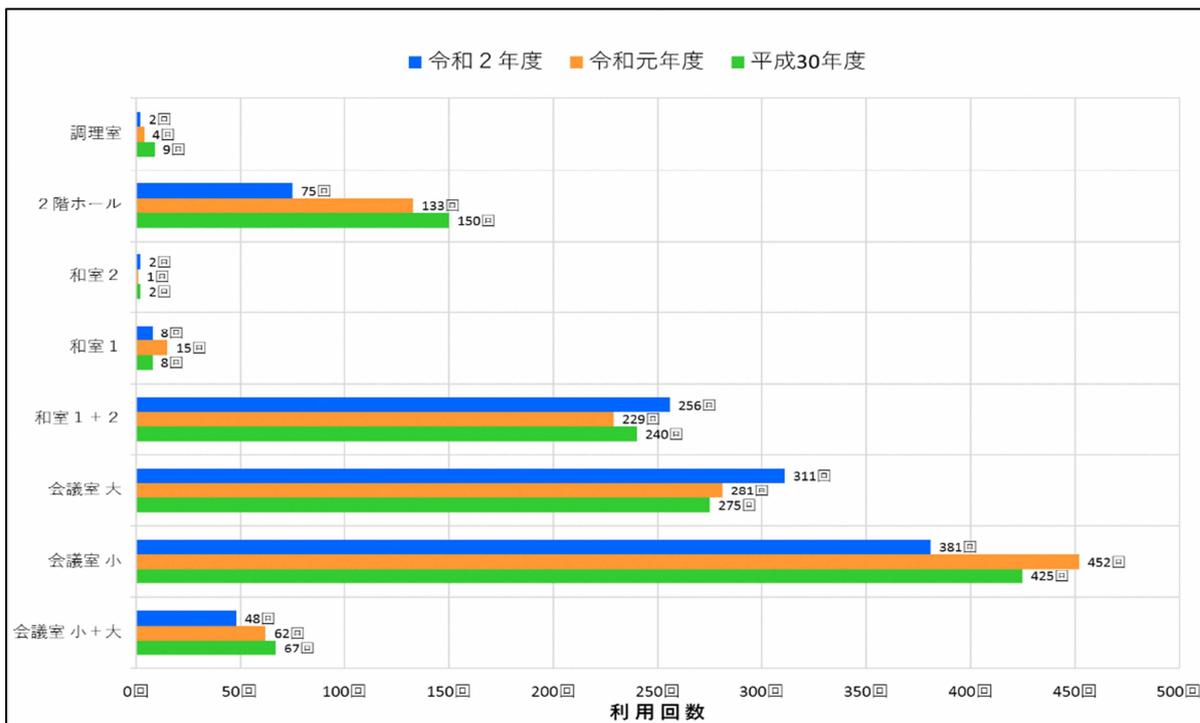
2) 広瀬中央交流センターの利用状況

広瀬中央交流センターの利用状況について整理します。

諸室の利用状況

- ・ 「会議室（小）」の利用回数が最も多く、次いで「会議室（大）」、「和室 1+2」の順となっています。
- ・ しかし、「会議室（小）」と「会議室（大）」の2部屋を使った比較的人数が多い用途での利用は少ないようです。
- ・ 「2階ホール」は、サークル活動の練習場所としての利用が利用回数のほとんどを占めており、ステージ・観覧席の全体を使った利用は、学習発表会や音楽会での利用であり、利用回数は少ないようです。

過去3年間の諸室別利用状況(回数)



※広瀬地区交流センターの利用を除いた一般の利用状況を掲載

3. 複合施設に求められる機能の整理

新たな地域拠点としての複合施設のあり方や、求められる機能について、地域の方から意見をいただく場として、市民ワークショップを開催しました。

(1) 市民ワークショップの開催概要

市民ワークショップは、広瀬中央交流センターを利用されている方や、将来のまちづくりを担っていただく若い世代からも意見をいただくため、安来市在住の15歳以上の方を対象に公募を行い、参加申込みのあった10代から70代の市民38名により構成し、合計3回の市民ワークショップを開催しました。

回	日にち	参加者数	主な内容
1	令和3年8月29日(日)	31名	「広瀬のまちなか」で必要あるいは充実してほしい場所や機能について
2	令和3年9月26日(日)	33名	多様な世代が気軽に利用できる新たな施設のあり方について
3	令和3年11月7日(日)	18名	ホール(広いスペース)の効率的で魅力的な使い方について



(2) 市民ワークショップの結果整理

1) 第1回 令和3年8月29日(日) 参加者31名

「広瀬のまちなかで必要あるいは充実してほしい場所や機能とは？」というテーマで、年代別のグループでディスカッションを行いました。

テーマ：広瀬のまちなかで必要あるいは充実してほしい場所や機能はなんですか？

	中高生	20～50代	60代以上
居住環境	—	・空き家の活用	・高齢者が暮らしやすいまち
買い物環境	・本屋がなくなった	—	—
飲食環境	・おいしい食べものが食べられる施設 ・ファーストフード ・スポ少等の慰労会ができる飲食店	・焼肉店、居酒屋 ・子連れで行ける飲食店	—
遊べる場所	・公園 ・ドッグラン ・屋内遊技場(カラオケ、ボーリング等)	・キャンプ場 ・公園 ・ゲストハウス	・子ども向け科学館 ・キャンプ場 ・公園 ・登山道
スポーツ環境	・屋外でバスケ ・広瀬体育館の充実(用具などが古い) ・マラソン大会 ・テニスコート	・バッティングセンター ・サッカー場 ・ゴルフ練習場	・自然の中のウォーキングコース ・ジム
医療・福祉施設	—	—	・医療機関の充実
安全・安心	・街灯を増やす	・街灯を増やす ・防災対策	・避難所になるような施設
交通環境	・遅い時間のバスの運行	・交通機関の充実 ・買い物バス	・イエローバスのルートの充実
観光機能	・観光サインなどの充実 ・足立美術館のような魅力的な建物	—	・道の駅の充実 ・特産品の販売所 ・星の見えるまち
交流及び交流センター機能	・若者と高齢者が関わる機会 ・高校生が子どもたちに教える場 ・静かに勉強できる図書館	・気軽に集まれる雰囲気のおしゃれな場所 ・気軽に立ち寄り、落ち着いた空間、学習エリア、子ども用エリアの充実 ・行政機能の集約 ・子どもたちが他校と交流する場 ・独居高齢者との交流 ・小中高生と地域住民が交流できる機会	・だれでも気軽に集まれる場所 ・広瀬のことを学ぶ情報センター ・コーディネーターの育成

2) 第2回 令和3年9月26日(日) 参加者33名

「多世代が気軽に使える交流センターに必要な機能」を多様な年代のグループでディスカッションしました。

その後、広瀬庁舎の敷地を活用し平屋で建設する想定で必要な機能を配置してみるワークを行いました。

テーマ：多世代が気軽に使える交流センターに必要な機能とは？

諸室名	機能イメージ
図書室	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の方が気軽に利用できる図書館（親の目が届くキッズスペース、おしゃべりが楽しめるカフェ併設） ・個別の学習スペース ・本を読むスペースと学習スペースを分ける ・19時まで利用できる ・検索システムの導入 ・W i f i 環境、インターネットが利用できるパソコンの設置 ・今よりも広い図書館
調理室	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳スペース程度に規模を縮小 ・防災拠点としては必要な機能 ・災害時の炊き出しができる設備 ・料理教室等での活用ができる程度のもの ・絶対に必要 ・あまり使わない
ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の規模（ステージ+ホール+観客席） ・100人規模のイベントに対応可能 ・利用が無い日はプレイルームに利用 ・音響設備の充実
会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋数を増やす ・和室も必要（靴を脱いで利用） ・防音機能（カラオケ、サークル利用） ・可動の間仕切りで仕切れる100人規模の大きい会議室 ・避難所としても利用できる ・サークル活動で集える10人程度の小部屋 ・予約がない日は学習・遊び・お茶等で利用できるフリースペースにする
避難所機能	<ul style="list-style-type: none"> ・シャワー室 ・防災用品の保管倉庫（段ボールベッド、仕切り等）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通信回線（ネット環境）の充実 ・パソコン室 ・多機能トイレ

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の確保 ・ バス停 ・ 平屋でなければエレベーターが必要 ・ 音楽イベント等ができる多目的のイベントスペース ・ サークルの発表の場としてのギャラリー ・ 集まって語り合えるフロア ・ 飲食スペースや売店 ・ JA 支店も複合にする ・ あらゆる手続きがワンストップ
--	--

テーマ：広瀬庁舎の敷地に必要な機能を配置してみる

上記で提案があった機能について、広瀬庁舎の敷地に当てはめてみるワークを行いました。検討をしていく過程で、規模や建築場所について、以下のような様々な意見をいただきました。

項目	内容
中央交流センターとしての機能について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央交流センターが地区交流センターに加えて必要な機能はホール（ステージ、観客席含む）と図書館 ・ 新たな複合施設が中央交流センターか地区交流センターかはっきりしないと議論できない
地域センターについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい施設に複合が良い ・ 行政関連の施設が同居していると気軽に立ち寄りやすい ・ 行政手続きはワンストップで行えるのが望ましい ・ 病院付近が便利が良い
想定する規模・形状について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規模は現状を維持してほしい ・ 現段階で平屋と限定すべきでない
想定する建設予定地について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広瀬庁舎跡地では狭い ・ 地域センター、交流センター、福祉関連施設、図書館の機能は病院やスーパーの近隣が良い ・ バスがあって交通の便の良いところが良い

3) 第3回 令和3年11月7日(日) 参加者18名

「ホール(広いスペース)の、効率的で魅力的な使い方」を年代別グループでディスカッションした後、グループの垣根を超えて意見交換(クロストーク)を行いました。

この日は、安来市へ公共施設マネジメントアドバイザーとしてお越しいただいている前橋工科大学・堤洋樹准教授より、全国の事例をご紹介いただきました。

【事例】堤洋樹准教授による情報提供(抜粋)

事例	概要
武雄市図書館 (佐賀県武雄市)	2013年に改修された、コーヒーショップが併設された武雄市図書館が大ヒット。このころから図書館の概念が大きく変化。 ⇒ただし、カフェやキッチンカーなどの民間企業は儲かる確信がないと出店しない。
信州おぶせまちじゅう 図書館 (長野県小布施町)	図書館とは別に町内の店舗や住宅に本を置いて、まちなかで本を読む機会を提供している。 ⇒従来の図書館ではできない「交流」が生まれている。
角川武蔵野ミュージアム (埼玉県所沢市)	ミュージアム内の「本棚劇場」はホールと図書館が一体となっている。 ⇒イベント利用時は本を探ることができないが、それならいっそイベントに参加してみるという選択肢が生まれる。

テーマ：ホール(広いスペース)の効率的で魅力的な使い方は？

年代	主な意見
中高生	<ul style="list-style-type: none"> ・卓球などの軽スポーツができる ・吹奏楽部のリハーサルで使いたい ・「発表会」という特別感、緊張感のある体験ができる場
20~50代	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発表の場 ⇒子供たちの体験にプラスになる ・ステージを利用した大きなイベント ・子どもたちが広瀬に戻ってきたいと思える施設
60代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけフリーなスペースにして時代にあった使い方ができる、よそにはない面白いもの ・図書スペースを中心とした異世代の交流の場 ・次世代のために、今あるようなホールはいらない

【クロストーク】各グループの意見を聞いた感想やもっと聞いてみたいことは？

発言者	発言
60代以上女性	グループワークを通して、皆さんがこの施設で多くのことをやってこられたということを改めて実感。20～50代のテーブルでは施設のことよりまちづくりに主眼を置いて議論されていたように感じたので詳しく聞きたい。
20～50代男性	私たちの世代はここで自分たちの学習発表会をしたし、自分の子どもの発表会も見てきて、思い入れもあり誇りに思う。中高生になった子どもたちがこういう場を使ってもっと交流してほしいし、できれば町外に出ず（または戻ってきて）広瀬で自分たち（親世代）がやってきたことをつないでいてほしい。
10代女性 （中学生）	音響ホールだけでなく、違う用途でも使えるホールになると良いと思った。Eグループが発表した、市民が運営する図書館のことを詳しく聞きたい。
Eグループファシリテーター	例えば絵本や紙芝居の読み聞かせなど、住んでいる人が面白いと思うものを住民が主体的に運営してはどうかという意見。施設自体の運営や法律のことはよく分からない。
市担当者	施設自体の運営について例えば指定管理という方法もある。個人的には、まちの人が面白がって運営に携わってもらうことはとても良いな、と思った。市と住民の皆さんとが歩み寄って可能な方法を探っていきたい。
堤准教授	運営の方法として①建物を市から移譲、②指定管理の2つが考えられる。ただし、移譲は交流センターくらい規模が大きいと難しい。指定管理は会社やNPO等の組織を作って管理することが求められる。また、組織を作っても管理する中でやりたいことを明確に示す必要がある。やりたいことを実現できる仕組みを構築することが大事で、1人で無理なら周りや市を巻き込んで取り組んでいてほしい。

【参加者アンケート】

新しい交流センターがみなさんの憩いの場や活動の場として整備され、利用され続けるために、あなたがしたいこと、できることは何ですか？

<ul style="list-style-type: none"> ・ 広瀬中出身ではない友達と一緒にPRの手伝いをしたい。 ・ 学習スペースなど、普段から気軽に活用できそうなところはぜひ利用したい。 ・ 防災上の研修の場として活用したい。 ・ 音楽や食を楽しむ交流の場、おしゃれなマーケット、マルシェ。 ・ 子育て・子育てを支援するような交流センターで子育て応援をしてみたい。

4. 複合施設整備基本構想の策定

(1) 複合施設の整備コンセプト

ワークショップの結果から、多くの方は原則としてサークル活動をはじめとした交流活動が今後も継続できるように、現状施設の機能や規模の維持・充実を望まれていることがわかりました。

特に勉強・作業ができるスペースや、ゆったりとくつろげる空間を備えた図書館機能へのニーズが非常に高いことが明らかになりました。

さらに目的がなくても気軽に立ち寄れ、新たな交流が生まれる施設を望む声も多く寄せられました。

また、災害時の避難所や防災拠点として十分に機能をするように整備する必要があるとの指摘もありました。いずれにしても、次世代にもよく利用され、将来も地域の拠点として誇れるような施設が望まれていることがわかりました。

以上の結果を踏まえ、新たな複合施設の整備コンセプトを次の通り設定します。

《 住民が誇れる多世代交流施設 》

① 新たな交流が生まれる

中高生が年下の子どもたちに勉強を教えたり、広瀬のことを学びたい若者が高齢者とふれあったり、地域や世代、立場を超えた新たな交流が生まれる施設を目指します。

② 集い憩える

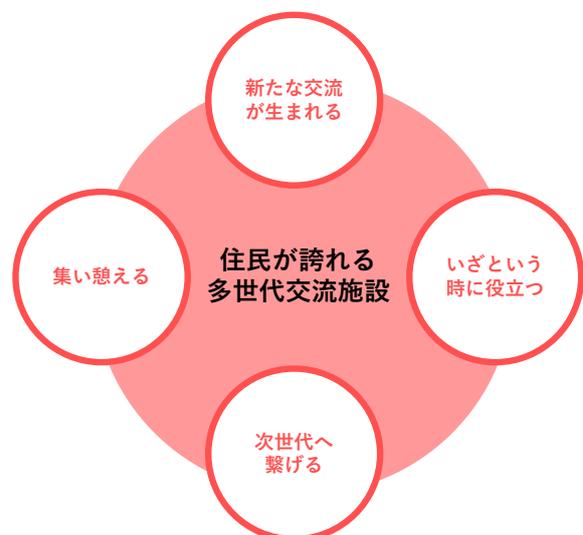
同級生やママ友などの同じ目的を持った人たちと集まって勉強や交流活動をしたり、目的がなくても気軽に立ち寄って図書などを媒介にしながらゆっくりおしゃべりをしたりできる憩える施設を目指します。

③ いざという時に役立つ

新たな施設は、災害時の避難所や防災拠点として機能するように、工夫を凝らし、住民の安全・安心の拠り所となる施設を目指します。

④ 次世代へ繋げる

広瀬の未来を担う若者世代が使いやすく、負担にならない施設、そして若者世代が地元に残りたい、帰ってきたいと思えるような誇れる施設を目指します。



(2) 整備の方針

1) 多様な世代が交流でき、柔軟性の高い集会の場の整備

地域団体等の会議や各種サークル等の団体活動の利用ニーズに応じた地域や団体の活動や交流を支える場となるとともに、多世代が交流できるイベント等にも対応できる空間を確保するなど、様々な利用シーンに対応可能な柔軟性の高い会議スペースを目指します。



2) 憩いの場となる図書室の整備

本の貸し借りの基本的な機能に加え、図書室を核としたくつろぎのスペース、勉強ができるスペース、親子の読み聞かせができるスペース、誰もが気軽に立ち寄れるスペース、小さなイベント等が開催できる仕掛けなどを整備し、多様な世代が思い思いの過ごし方ができる図書室を目指します。



3) 防災拠点としての機能充実

洪水や土砂災害などの発生時に安心して避難できる場となるような機能の充実、防災備蓄品保管場所の確保、自然エネルギー等を利用した非常電源の整備など、防災活動の拠点としての機能充実を図ります。

4) 住民が誇れる次世代ファーストの施設整備・運営

地域の活動拠点として、持続的に利用されるためには住民が利用しやすい環境をつくることが重要です。特に若者世代の定住促進につながるような施設になるように、次世代がいきいきと気兼ねなく利用でき、将来、施設の利用や維持等に大きな負担が生じず、次世代に受け継がれていく施設を目指します。



(3) 導入機能

前述の整備の方針を踏まえ、導入機能と整備の概要・イメージについて以下のように整理しました。

導入機能	整備の概要・イメージ
交流センター機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な集会やイベント、研修会及び日常のサークル活動の場に利用できる施設として、防音効果の高い施設を整備します。 ・ 日常的な小会議や少人数のサークル活動に対応できる会議スペースを確保します。備品に畳などを準備し、和室としての利用や避難所としても利用できるようにします。 ・ 調理スペースは、近隣に立地する社会福祉センターにも同様な施設がありますが、災害時等の炊き出しなどを懸念する声もあり、多目的に利用できる施設にします。
図書室機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の陳列は貸出頻度が高いものを中心とし、検索・貸出機能の充実を図り、利便性を確保します。 ・ 図書などを活用しながら、学習できるスペースや、ゆったりと読書ができるスペースを確保します。 ・ 幼児と一緒に親子で、おしゃべりしながら本を読み聞かせるスペースを確保します。
共有スペース機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数で少しおしゃべりしながら勉強できたり、小会議が出来たり、パソコンなどを活用してちょっとした作業ができるスペースを確保します。 ・ 地域の人が気軽に寄れて、談笑したり、休憩したりできるようなスペースを確保します。小さな子どもがいても利用しやすいように、幼児が靴を脱いで遊べるスペースも併設します。 ・ 必要に応じて、利用者へ飲食が提供できる設備を準備します。休日やイベント時での提供や災害時などの炊き出しにも活用できるような施設に配慮します。 ・ 交流センターの事務室を確保します。 ・ トイレや給湯室などの必要な便益施設等を確保します。 ・ 防災拠点としての機能を備え、非常用のエネルギー等の確保に配慮します。

※安来市役所の窓口機能である広瀬地域センターについては、本基本構想には含めず広瀬地域全体の状況をみながら総合的に判断することとします。

(4) その他の留意事項

ライフサイクルコストの縮減やユニバーサルデザインを考慮し、建築物の構造は平屋を基本として検討していきます。

整備箇所は、現時点では広瀬庁舎や広瀬中央交流センターがある地区において、市有地を活用して整備することを想定しています。

※ライフサイクルコスト：施設の建設費、管理運営費、改修費、解体費まで施設の一生に必要な費用

(5) 施設機能イメージ



5. 基本構想実現に向けて

(1) 今後の検討事項

本基本構想では、整備にあたっての方針について定めましたが、施設の規模や整備箇所については定めていません。

次のステップとなる基本計画において、施設規模の設定、それを実現するための敷地の決定、整備内容を示す機能配置プラン等を設定していきます。合わせて、次世代につなぐ施設の管理運営に向けて、整備後の管理運営の方法などについても検討を進めていきます。

基本計画は、引き続き住民の方や利用される方からの意見を参考にしながら策定していきます。

また、現施設が役目を終えるまで、現施設を使い倒すための取り組みも並行して実施するなどして、新たな施設整備にあたっての留意事項としてフィードバックしていきます。

さらに、規模設定や敷地選定にあたっては、広瀬地域センター機能の配置についても重要な条件になるものであり、基本計画策定時にはその取扱いを決定しておくものとします。

(2) 事業スケジュール

今後のスケジュールとしては、令和4年度以降に基本計画を策定するとともに、財政計画と調整して実施年度を決定します。